

～加治木小学校くも合戦日記～

本校伝統の加治木小くも合戦。例年、加治木小では、5年生有志がくも合戦保存会の方が準備するバスに乗り、くも合戦用のくもを採集し、しばらく学校で飼育した後に校内くも合戦を行っていた。

しかし、今年度の始良市くも合戦は中止！

我が校の伝統もここでいったん潰えてしまうのかと思っていたそのとき、「うちに巣を作ってたから、しばらく飼って持ってきます！」上菌教諭が、指先までびしっと伸ばして挙手して言った。「ようし、伝統の火を絶やすな！」

こうして、上菌教諭の庭で育つ4ひきのくもを頼りに、一度はあきらめていた令和2年度校内くも合戦が動き出した。途中、子供が準備した1匹と入れ替えも乗り越えて。



とはいえ、限られたたった4ひきのくもである。当然規模を縮小しなければならぬ。ところが――

「なんだ!? 5年生の廊下にくもが巣を作っているではないか。」

ここ数年は飼育ネットで飼われていたはずのくも。しかし、今年度は廊下に笹がセットされ、しっかり4カ所、くもがえさを待ち構えるように網を張っている。どうやら、1組と2組に分かれて飼育をしているようだ。

「例年どおり休み時間になるとえさとなる虫を捕まえに走り回っているな。」しばらく観察してみる。「いやいやそれは無理だろう!？」あり得ないサイズのバッタを捕まえてきて巣にくっつける1組。「そんなに食べないだろう!？」大量の小型バッタを巣にくっつける2組。「ここは僕たちが先に見つけたえさ場だ!」えさ場を争ってけんかを始める男子。なんだかここ数年でいちばん面白い展開である。

さて、くも合戦当日。「今年は保存会の方も来ないのでちょこっとやるだけです。見に来てもつまらないですよ」とは5年担任の弁。ならばとこっそりのぞきに行こう。



規模縮小? いやいや。そこにはしっかり盛り上がる5年生の姿があった。保存会の方が来ていないのでいつもの黄色い法被姿はないが、じいっと見つめ、腕を振り上げて声援を送り、勝った負けたと跳び上がる。

もしかするといつも以上に近距離で合戦を見ることができたからだろうか。ぐっと身を乗り出し、目を輝かせる子供たちの姿がそこにはあった。



今年の優勝くも



手作りマスクをいただきました



有限会社内村工務店様から、児童用の手作りマスクを200枚いただきました。「マスクが必要でしょう」と以前お話をいただいていたのですが、まさかこんなにたくさんいただけるとは思っていませんでした。

わざわざ児童用サイズで小さめに作ってくださっています。さっそく下学年児童に配布いたしました。

ありがとうございました。

手作り雑巾をいただきました

「最近では手作り雑巾は使わないって息子が言うんだけど」春日地域の森木洋子様より手作り雑巾をいただきました。

いいえしっかり使います。体育館、廊下、特別教室…。本当に助かります。ありがとうございました。



不審者情報は、まず110番!

もうすぐ夏休み。子供たちの命を守るためには初動が大切です。まず警察に連絡しましょう。学校へはその後。家庭・地域で御確認ください。